



**まちづくり推進隊とは、**まちづくり活動をしたい人が自主的に集まる、町を単位とする会員制の組織です。町民であれば誰でも会員になることができ、市から交付金を受けて、まちづくり活動を行うことができます。

まちづくり推進隊から、平成24年度の実績報告書が提出されました。三豊市地域内分権推進交付金交付規則第24条第2項の規定に基づき、交付金額と主な事業について公表します。なお、実績報告書の詳細については、市ホームページに掲載しています。

▶問い合わせ 田園都市推進課 ☎73-3011

**まちづくり推進隊高瀬** ☎73-3410

活動期間	H25/2/4~3/31	
交付金額	752,731円	
(内訳)	事業費	42,151円
	人件費	331,392円
	備品購入費	321,495円
	その他経費	57,693円
主な事業	アンケート調査	

**まちづくり推進隊山本** ☎63-1501

活動期間	H25/2/8~3/31	
交付金額	960,565円	
(内訳)	事業費	3,960円
	人件費	239,739円
	備品購入費	408,660円
	その他経費	308,206円
主な事業	各種団体との意見交換	

**まちづくり推進隊三野** ☎73-6228

活動期間	H24/12/15~H25/3/31	
交付金額	1,194,255円	
(内訳)	事業費	58,846円
	人件費	478,460円
	備品購入費	292,895円
	その他経費	364,054円
主な事業	講演会	

**まちづくり推進隊豊中** ☎62-5210

活動期間	H24/12/22~H25/3/31	
交付金額	1,073,376円	
(内訳)	事業費	5,004円
	人件費	368,055円
	備品購入費	524,439円
	その他経費	175,878円
主な事業	各種団体との意見交換会	

**まちづくり推進隊詫間** ☎83-3639

活動期間	H24/4/1~H25/3/31	
交付金額	22,808,100円	
(内訳)	イベント助成金	10,697,279円
	その他事業費	2,860,873円
	人件費	7,666,420円
	備品購入費	579,453円
	その他経費	1,004,075円
主な事業	たくま港まつり協賛会事務局 その他イベント事務局など 防災フェスタ2012 会員研修会(年2回)	

**まちづくり推進隊仁尾** ☎82-5207

活動期間	H25/1/29~3/31	
交付金額	785,324円	
(内訳)	事業費	50,000円
	人件費	5,098円
	備品購入費	605,993円
	その他経費	124,233円
主な事業	講演会	

**まちづくり推進隊財田** ☎67-3790

活動期間	H24/12/17~H25/3/31	
交付金額	1,110,522円	
(内訳)	事業費	4,684円
	人件費	351,881円
	備品購入費	663,915円
	その他経費	90,042円
主な事業	各種団体との意見交換	

▼問い合わせ  
企画財政課

☎73・3010



「紅一点じゃ、足りない。」  
まて協互ど分  
しい力いお担  
よいきしがおな

平成11年6月23日に、男女共同参画社会基本法が制定されたことを記念して、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」としています。男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を發揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには、皆さん一人ひとりの取り組みが必要です。私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか？地域活動への参加、家庭や職場での男女の役割

**目指せ 男女共同参画社会**

No.31

6月23~29日は、**男女共同参画週間**です。今年のキャッチフレーズは「紅一点じゃ、足りない」



**文化財を訪ねて** ③

**金鳥池窯跡**



▲検出した1号窯跡

金鳥池窯跡は、豊中町上高野の妙音寺境内にある「金鳥池」というため池の中にある窯跡です。出土した遺物から、8世紀末〜9世紀末ごろに瓦を専門的に焼いていた窯跡であることがわかりました。発掘調査によつて、窯跡が2基と瓦の不

良品などを廃棄した穴(瓦溜)が1基確認されています。1号窯は、①火を焚く「焚口」から、②燃料を燃やす部屋である「燃焼室」が続き、③その先に瓦を焼く「焼成室」があります。焼成室の床には「ロストル」と呼ばれる畦が数本伸びており、早く、効率よく瓦が焼けるように工夫されています。ロストルの先端は、その一部には、文様の施された軒平瓦も用いられていました。ロストルの構造はとも特異で、県内には類例がないため、独自に瓦生産を営んでいた可能性がにあります。

また、1号窯の前方には灰を掻きだしたり、不良品を棄てたりしていた「灰原」も確認されています。灰原と窯の間からは、軒先につける軒丸瓦が1点ずつ出土しました。これは県内に類例がない瓦であるため、古代の三豊市における瓦生産を考える上で大変貴重なものです。窯跡は現地で埋め戻され、保存されることになったため、現場で窯跡をみることはできませんが、出土した遺物の一部は6月16日(日)まで「宗吉かわらの里展示館」で開催する「速報展」でご覧いただけます。

▼問い合わせ  
生涯学習課 ☎62・1113

良品などを廃棄した穴(瓦溜)が1基確認されています。1号窯は、①火を焚く「焚口」から、②燃料を燃やす部屋である「燃焼室」が続き、③その先に瓦を焼く「焼成室」があります。焼成室の床には「ロストル」と呼ばれる畦が数本伸びており、早く、効率よく瓦が焼けるように工夫されています。ロストルの先端は、その一部には、文様の施された軒平瓦も用いられていました。ロストルの構造はとも特異で、県内には類例がないため、独自に瓦生産を営んでいた可能性がにあります。



▲県内に類例のない軒丸瓦